

## 第7回国際ヴァーテイシリウムシンポジウムに参加，発表

小池正徳

畜産環境科学作物科学助教授

### 1. 目 的

第7回国際ヴァーテイシリウムシンポジウムに参加，発表し，Verticillium 病に関する最新情報を得ること。

### 2. 期 間

平成9年9月31日から10月15日

### 3. 場 所

ギリシャ，スーニオン岬（アテネ，ヘラス）

### 4. 内 容

第7回国際ヴァーテイシリウムシンポジウムはアテネ農科大学チャモス教授によりオーガナイズされ，ポセイドン神殿のあるスーニオン岬のケープスーニオンビーチホテルで開催された。本シンポジウムは約4年に一回開催され，前回は1994年イスラエルで開催されている。本シンポジウムは植物の土壤伝染病として特に重要な Verticillium 病の基礎的および応用研究について各国の研究者が集い議論を交す場である。毎回ほぼ100名の参加があり，今回も地元の研究者を含め，110名の参加があった。日本からは私を含め3名が同行した。

シンポジウムのセッションは1) 分子生物学，2) 栄養体親和性，3) 疫学，4) 宿主との相互作用，抵抗性の生化学，生理学，5) 防除法の5つに別れていた。各セッションとも10題前後の口頭発表と7-8題のポスターセッションからなりほぼ1日でそれぞれのセッションを消化していくという構成だった。中には夜10時半まで行われたセッションもあり，かなりハードなスケジュールだった。

各分野とも前回よりかなり研究が進展した。私達の研究を含め分子生物学的手法と栄養体親和性の解析結果より，病原性と関係のあるDNAマーカーや生化学的マーカーがかなり報告され，今後，疫学的および集団遺伝学的研究が進むことが予想される。また抗菌性ペプチド遺伝子に根で特異的に発現するプロモーターを付加したベクターを導入した形質転換ワタが Verticillium 病に対して抵抗性を示したとの報告がオーストラリアのCSIROのマクファデン博士によりなされ，ワタの被害が多い中国，アメリカの研究者とともに実用化に向けての対策が議論されていた。なお詳細については本年度の植物防疫8月号の Verticillium 特集号を参照されたい。

最後に本シンポジウムの参加にあたり，援助をいただいた畜大後援会に深謝いたします。